

## 休載のご挨拶(2012. 9.12 配信)

突然のお知らせとご挨拶で恐縮ですが、「サロン便り」の連載から「筆を擱く(おく)」=「書くことを終わらせる」ことにいたしました。連載の始まりは 2008 年でしたから、5 年にわたって書き続けてきたこととなります。去る 8 月下旬、私からの申し出で、サロン代表の吉満さんと懇談した結果です。そう決めた理由を簡明に記します。

1. サロンをサポートする(株)VSOC が、去る 7 月末に、従来の広尾(港区南麻布)から JICA 本部がある麴町(千代田区紀尾井町)に移転した。「国際協力サロン」は従来通りに広尾に残ったものの、筋向かいにあった JICA 広尾センター/地球ひろばの閉鎖に伴い、来訪者の便宜減少は避けがたく、本年内を目途にオフィスを閉じることにならざるを得ない。
2. 「サロン便り」は、連載開始の第 1 号(2008.07.22 配信)に、その冒頭から、ざっくばらんに経過や趣旨などを記したとおり、吉満さん=(株)VSOC 代表取締役社長からのオファーを私が受けとめてスタートした。すでに 5 年目に入り、所期の趣旨・目的を充分に果たしてきたとの評価をいただいている。
3. 吉満さんは今も同社の代取ではあるが、会長として、代表取締役社長を後継者(中垣長睦さん)に譲っておられる。将来、同社が麴町で、「サロン」同様の社会的な活動を予定するとすれば、若返りの新体制を作っていく方向が望ましい。

以上に尽きます。

一般に、雑誌、新聞をはじめ、同人誌、社内、グループ内の月報や週報でも、定期刊行物で企画し連載を進めるには、複数の筆者が適宜書き競うとか、一人の筆者が担当するとしても、1~3 年ほどの期間内が一応の目安でしょう。結果的にせよ、それを超えて 5 年に及んだのは、筆者としては、やや長すぎたのでは、と感じています。

それはともかく、吉満さんと話し合い、すべて同感、同意した結果ですので、私としては早く実行に移したい。「サロン」はまだ鋭意活動中ですが、配信済みの第 53 号「日本橋の話」をもって完了といたします。

これまでのご愛読を心から感謝いたします。また、資料の収集・提供や、取材(企画展に同行など)にご協力いただいた諸兄姉に、改めて厚く御礼を申し上げます。

これからも、可能な範囲で、内外経済、社会事象、国際関係等々、文系の領域であれ理工系の話題であれ、数々の課題、問題にチャレンジしていきましょう。

皆様のご活躍、ご多幸を祈念しつつ、「サロン便り」幕引きのご挨拶といたします。

(2012 年 9 月 11 日記。国際サブロー)